



ノストラダムスの大予言は本当にあたるの

とてもわかりにくいノストラダムスの予言

ノストラダムスの予言といわれるものは、詩なのです。ノストラダムスが書いた予言は、とてもわかりにくい詩で書かれています。

彼は月のすみっこに入ってきて

とらわれるところに　そして未知の国に

緑の実ばらばらにならび

人はほめたたえ、そしてはずかしがる

これが、ノストラダムスの予言の詩の一部なのです。何か、よくわかりませんね。

この詩が、人間がロケットを飛ばして、月に着陸したことを予言した詩である、といわれています。そういわれてみれば、そんなふうに思えてきますが、やはり、よくわからない詩です。

詩の意味をどうとるかによって、ちがってくる

このように、ノストラダムスの大予言というのは、とてもわかりにくい詩になっているために、その詩の意味をどうとらえるかによって、答えがちがってきます。予言が正しいと思うか、正しくないと思うかによって、まったくちがった結論が、出てきてしまうわけです。予言があたると信じてもいいし、信じなくてもいいのです。予言というものは、そのようなものだと思って、深刻に考えないほうがいいでしょう。（監修・青木 国夫）

